



冠動脈造影検査

除夜の鐘を合図に始まった今年の元旦は珍しく快晴の穏やかな天候に恵まれ、神社、仏閣には沢山の参詣者が出かけたと思う。近隣では昔から有名で全国からの参拝者が多い金刀比羅宮に、次いで四国八十八ヶ所霊場巡りで知られる総本山善通寺に参拝する人々で混雑していた。

ところで昭和51年6月に結成され昨年40周年を迎えた“善通寺日曜日を走る会”（善走会）では昭和58年から毎年元旦の早朝6時に会員50余名が善通寺市役所前に集まり、ラジオ体操の後暗闇の中をライト片手に琴平を目指して雑談しながらゆっくり走り、夜明け頃に金毘羅さんの麓に着く。元旦の表参道は参拝者で大変混雑するので、会員たちは石段の無い緊急用の裏参道を走って登り御本宮を参拝し、7時過ぎの初日の出を拝してから善通寺まで走って帰る「初詣マラソン」（約16km）を継続している。私も70歳過ぎまでは毎年参加し清々しい初詣を楽しんでいたが、加齢とともに参加できなくなってもう久しい。また、毎年金刀比羅宮例大祭の前に行われる“琴平石段マラソン”にも何回か参加したことがあり、JR琴平駅から走って街中を通って表参道に入りあの七八六（なやむ）段の石段を走って登り、御本宮で折り返し駅まで走って帰るのを体験したことがあり、懐かしい思い出となっている。

しかし、高齢となり走れなくなってからは、毎年娘の嫁ぎ先である琴平の塩田歯科医院に新年のご挨拶をしてから金刀比羅宮に参拝することを年中行事の一つと決めて継続してきた。今年は好天にも恵まれ暖かであったので、家内と一緒に例の裏参道を登り始めたところ、今までにあまり感じたことのないような息苦しさや胸部の圧迫感、不整脈などを自覚して前に進めなくなり、その後はしばし休んで楽になってからまた登るといった状態を繰り返しながらゆっくりと歩んだ。やっとの思いで御本宮にたどり着き参拝を終えて、しばし休憩の後帰りは下りなので楽に下りることができた。近ごろは日常生活の中でも息苦しさや胸部の圧迫感を感じることはあっても加齢のためだろうと甘く考えていたと思う。

でも今年の初詣では今までに感じなかったような自覚症状が気になったので、当院の循環器専門の篠原先生にお願いして負荷心電図、心エコー、胸部レントゲン検査などを実施して頂いたところ、これらの検査では明らかな異常を認めないが、元日の症状は労作性狭心症の可能性があるので、高齢のことも考慮して一度心臓の精密検査、即ち冠動脈造影検査（略して心カテ）をしてはと勧められた。早速“四国こどもとおとなの医療センター”で心カテを専門に実施されている竹谷先生を紹介して下さった。さらに

精密検査を受けることが必要だという家族の意見もあって検査入院を考えた。私自身が医師として狭心症や心筋梗塞の患者さんを診てきて、不幸にして亡くなられた方や幸運にも適切な処置で現在も元気で活動している人を知っているので、近年の医療の進歩は素晴らしく心カテの重要性を再認識し、私もその検査をしていただくことにした。

1月の中頃、私にとっては初めての冠動脈造影を実施することになり、竹谷先生よりその説明を受けた。それは右手首で拍動を触れる橈骨動脈からカテーテルとよばれる直径1~2mmの細いチューブを入れて心臓まで挿入し、それを介して直接造影剤を注入し、X線で冠動脈の状態を撮影して病変の有無を確認する。即ち冠動脈の太さや形の変化、血流の様子から柔軟性や閉塞の有無などを多面的に観察できる検査であると説明された。また先生は優れた複数の医療機関で長らく研鑽を積み、豊富な知識と技術を習得されている先生だと篠原先生から教えていただいた。

検査の当日ベッドに乗せられて検査室に入ると、不安と心配で全身が緊張の塊になるのを感じた。検査は全身麻酔でなく器物の音や人声の聞こえる中で進み、先生の声掛けもあって最初の血管確保時の痛み以外には特に苦痛を感じることもなく約25分で無事終了できた。検査後先生の説明によると、先ず冠動脈には狭窄や閉塞の所見は見られず、冠動脈の柔軟性もあって、年齢相応に健全で狭心症、心筋梗塞を起こす危険性は今のところ無いとのお話で先ずは安堵できた。

ところで元日の金毘羅参りで体験した胸苦しい症状は正に狭心症の現象かと思われるものであったが、今回の検査結果で冠動脈血管は年齢相応に柔軟性もあるとのお話から血管の硬化はあまり進んでいないと思われた。その理由としては46歳から始めたジョギング、マラソン、その後に始めたウォーキングといった自分なりの運動の継続が良い結果を招いたのではないかと勝手に思っている。

人間の体は常に使い鍛えないと衰えるという原則を忘れずに、年齢相応に体も頭も使い続けることが健康長寿の秘訣になるのではないかと思われる。高齢になるほど無理は出来ないし継続することも難しくなるが、自分のためだと考え頑張ることがなにより大切であり、効果的と考える。継続は力なりであり、実践が結果をもたらすものでしょう。今回の検査で一応安心できたものの高年齢を考えると、今後は無理な負荷をかけないように注意しなければとの反省もある。しかし、適度の運動によって老化の進行を抑制する気持ちは忘れないようにしたいと思っている。

参考資料より

